

ドクター + 教えて

脳梗塞かな？と思ったら 様子を見ずに119番



磐田市立総合病院
第1医療部副部長兼神経内科部長兼
認知症疾患医療センター長

藤本 正也

脳梗塞の症状が現れやすいのは、顔、腕、言葉です。英語でFace、Arm、Speechで、これに時間が大切と言うことでTimeを入れて、「FAST」と頭文字の語呂合わせで呼びます。これらのうち一つでも異常があれば脳梗塞の可能性があるので119番しましょう。

実は脳梗塞を治せるチャンスは発症から数時間しかないのです。血管が詰まってその先の脳組織が死んでしまうのが脳梗塞ですが、脳は再生しないので治りようが無いのです。詰まった血管を通してあげれば治りそうなのが詰まってから数時間です。その後血流が再開しても脳は生き返りません。梗塞に陥る前に再開させなければならぬので時間制限があるのです。

10年程前にtPAという血栓を溶かす点滴薬が登場しました。後遺症を減らすためには、発症から4時間半以内に詰まった血栓を溶かさなければなりません。もう一つの治療法として、発症から8時間以内にカテーテルを使い、詰まった血管を再開させる治療法があります。発症から治療までに時間が経ってしまうケースが多く、脳梗塞患者さんのうち、tPAやカテーテル治療の恩恵を受けられるのは5割くらいです。

顔や腕、言葉に麻痺など何らかの異常が見られたら「そのうち治るだろう」、「明日まで様子を見よう」と判断せず、すぐに救急車を呼びましょう。

一人でも多くの患者さんがこれらの治療を受けられるよう、脳梗塞かなと思ったら様子を見ずに119番をお願いいたします。

地域防災訓練に参加しましょう

◎地域づくり応援課

☎0538-14751
FAX 0538-132353

12月3日(日)は地域防災訓練です。

市内の指定避難所を中心に各地域で防災訓練が行われます。積極的に訓練に参加し、避難所運営について話し合ったり、体験したりしましょう。

避難所運営は地域の皆さん一人一人が主役です。

※指定避難所の一覧は磐田市防災ファイルまたは市ホームページをご覧ください

忘れていませんか？家庭での備え

「災害が起きたら、避難所や公会堂に行けば何とかかなる」と思っていますか？

避難所での生活は、自分の家での生活とは食事やトイレも全て勝手が異なります。自主防災会や地域の防災訓練はとても大切ですが、その前に忘れてはならないのが「家庭での備え」です。日頃の備えが円滑な避難所運営につながります。

災害時に自分の家で生活するため、日頃から防災ファイルに目を通し、備蓄品の点検や補充、発災時の行動について家族で確認しておくことがとても大切です。

地域の防災訓練に参加する前に、家庭での備えを確認しましょう。



▲掲示板を使って安否確認



▲ケガの応急手当の講習



▲磐田市防災ファイル



くらしの
情報